

〈開催概要発表〉 釜山ビエンナーレ 2014
“Inhabiting the World”
2014/9/20-11/22 釜山市立美術館 等

第8回目となる釜山ビエンナーレ 2014は「Inhabiting the World」をテーマに、来る9月20日から11月22日までの64日間、韓国、釜山広域市の釜山市立美術館、釜山文化会館、KISWIRE Sooyoung Factoryなどで開催されます。

釜山の都市的、地理的特性を生かした展示によって釜山ビエンナーレを差別化することで、韓国の文化ブランド力を高め、国際文化芸術都市・釜山の地位を向上することを目的として開催される今回の釜山ビエンナーレでは、本展示と二つの特別展に加え、様々なアカデミック・プログラムや国際交流イベント、市民参加イベントなどが開催される予定です。

アーティストック・ディレクターのオリヴィエ・キャプラン（Olivier Kaepelin）がキュレーションに携わる本展示は、9月20日から11月22日まで釜山市立美術館で開催されます。「Inhabiting the World」をテーマとするこの展示は、抽象・運動、宇宙、建築的空間、アイデンティティ、動物、歴史・社会、自然・風景の7つのセクションで構成され、未来志向性のある作品を展示します。すでによく知られている作家だけでなく、若い作家の作業過程までをクローズアップする予定です。

キャプラン・ディレクターは「Inhabiting the world」というテーマをもって、今日の不安定な世界の中での芸術の機能と役割について、新たな視点を提示しようと試みています。「Inhabiting the world」は、能動的姿勢や活力の象徴であり、世界を変えるために世界に対して働きかける意志を意味していると述べます。今日の様々な社会の変化や問題について多くの専門家が分析や解決策を提示する中で、アーティストこそがより良い未来を見据えた効果的かつ持続可能な視点を持っていると考えています。本展示においては、展示場自体が美術教育の現場として機能するよう、展示のテーマと作品の理解を助けるエデュケーション・プログラムを開催する予定です。

特別展

二つの特別展「ビエンナーレ・アーカイブ」展と「アジア・キュレトリアル」展が本展示と共に開催されます。まず、「Voyage to Biennale -世界のビエンナーレにおける韓国現代美術の50年」をテーマに企画された「ビエンナーレ・アーカイブ」展は、釜山文化会館大・中展示場で開催され、李健洙（Lee, Kenshu、前「Wolganmisool」編集長）がキュレーションを担当します。「ビエンナーレ・アーカイブ」展は、この50年間、どのようにして韓国の現代美術がビエンナーレという国際展のシステムと連動し成長してきたかを振り返り、この時代におけるビエンナーレが持つ歴史的な意義と価値を考察する展示です。この展覧会は、韓国が初めて国際展に参加した1961年のパリ青年ビエンナーレから今日までの歴史を追うアーカイブ型の展示で、韓国現代美術の海外進出の歴史を一望する良い機会となることでしょう。

もう一つの特別展である「アジア・キュレトリアル」展は、釜山、横浜、上海、シンガポールなどアジアの主要都市で開催される国際展（ビエンナーレ、トリエンナーレ）から推薦された徐準皓（Seo Juno、

韓国)、花田伸一(日本)、柳淳風(Liu Chunfeng、中国)、Joleen Loh(シンガポール)の4人の若手キュレーターが企画する展覧会です。KISWIRE Sooyoung Factoryで開催されるこの展覧会では、国内外のアーティスト50人による作品が展示され、ビエンナーレに今一度若い活力を与えます。この展示は、釜山ビエンナーレが環境的特性を共有する都市と進めてきた国際交流の成果の発表の場ともなりません。

関連プログラム

このほか、ビエンナーレ会期中にはアカデミック・プログラム、国際交流イベント、パブリック・プログラムなど様々な関連イベントが開催されます。展示の評価とテーマに関する議論を喚起するために企画されたアカデミック・プログラムは、講演、現場ワークショップ、公聴会、釜山ビエンナーレ2014に関して議論するパネル・ディスカッション、10月に水原市(韓国)で開催予定の国際美術評論家協会(AICA)総会と連携して行われるフォーラムなどで構成されています。また「アジア・キュレトリアル」展に加え、2010年から釜山ビエンナーレの国際交流事業の一環として開催されてきた「アジア・ビエンナーレ・フォーラム」、アジアの国際展間の交流の方法を模索する「アジアビエンナーレ代表者ミーティング」やアジア地域の美術専門誌の編集長が集いアジアの美術について議論する「アジア編集長ミーティング」などが開催される予定です。また、釜山ビエンナーレ2014は、さまざまな市民参加プログラムも企画しています。出展アーティストと市民の出会いの場となる市民参加型イベントとしてアート・ワークショップ、ストリート・パフォーマンス、ふれあい広場などが催され、展示場と釜山市内の主要な場所をつなぐ場となります。

日本の観覧客誘致に拍車

また、釜山ビエンナーレは、外国人観光客を誘致するより実質的な手段として、積極的な日本人観覧客誘致に乗り出しています。

まず、中国と日本を対象とした釜山ビエンナーレ観覧を含むパッケージ・ツアーを企画する予定です。釜山ビエンナーレがパッケージ・ツアーを直接企画するのは今回が初めてとなります。釜山の様々な文化資源と連携した文化芸術観光プログラムの開発を通じて、釜山の文化の力を見せるねらいです。釜山の文化芸術観光プログラムの定着のため、釜山ビエンナーレを訪れる観光客に各言語の展示説明プログラムと記念品のプレゼントなどを用意し、観光を全面的にサポートする予定です。

また、これまでに開催してきたアジア・ビエンナーレ・フォーラムを通じて構築したアジア地域の海洋都市の国際展とのネットワークを海外広報に積極的に活用し、その波及力を向上させる計画であり、釜山市と姉妹都市であり地理的に隣接する福岡市で同時期に開催される第5回福岡アジア美術トリエンナーレとの相互広報支援、相互観覧客誘致など、外国人観覧客の誘致に総力を尽くします。

特色ある展示や様々なプログラムで構成される釜山ビエンナーレ2014は、来る9月20日から11月22日まで、釜山市立美術館、釜山文化会館、KISWIRE Sooyoung Factoryなどで開催されます。

お問い合わせ：

釜山ビエンナーレ 広報 Kim, Ji Yoon (Ms.)

Tel.: +82-51-501-9369 Fax.: +82-51-503-6584

Email: jiyoon.kim@busanbiennale.org Web: www.busanbiennale.org

38, Asiad main stadium, 344 Worldcup st. Yeonje-Gu, 611-809, Korea